

エラータム系デルフィニウムの種子冷蔵効果

エラータム系デルフィニウム「ブルーオリオン」の種子冷蔵は成苗率を向上させる。

背景・目的

■ エラータム系デルフィニウムにおいて、高温期に育苗を行う促成栽培では、高温による苗の生育不良が発生し問題となっています。エラータム系デルフィニウムの種子の種子冷蔵が、育苗時の生育へ影響を及ぼす影響を検討しました。

成果の内容

- 1 種子冷蔵を行うと育苗開始40日後の本葉の枚数が多く、最大葉長も長い(図1、データ略)。
- 2 種子冷蔵を15～30日間行くと雨よけ育苗開始40日後の成苗率が無処理よりも高い(図2)。



図1 育苗開始40日後の苗の様子
(左より 無処理、種子冷蔵15日間、30日間)

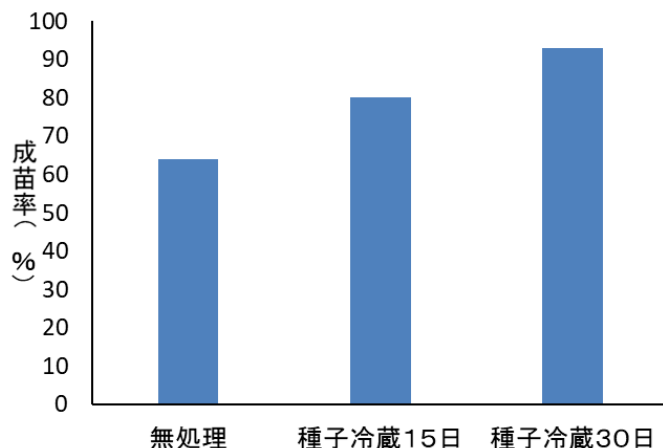


図2 育苗40日後の成苗率

成果の活用方法(又は期待される効果)

■ 種子冷蔵の利用により、高温期の成苗率の向上が期待されます。

留意点

- 「ブルーオリオン」を用いた結果です。
- 総合農試(宮崎市)での試験結果です。
- 普及対象は県内のデルフィニウム生産者とします。